

## 平成30年度 第4回生駒市環境審議会 会議録

1 開催日時 平成30年11月16日（金）9時30分～11時24分

2 開催場所 生駒市コミュニティセンター404会議室

3 審議事項

(1) 第3次生駒市環境基本計画の策定について

(2) 環境白書について

(3) その他

(以下、敬称略)

4 会議出席者

会長 中西達也

副会長 水谷知生

委員 下村晴意 山田耕三 河瀬玲奈 藤澤清二 上武敏一

池田憲央 矢田千鶴子 遊津隆義 横井明弘 山本裕子

事務局 石畑欽一 地域活力創生部長

奥田吉伸 市民部長

川島健司 地域活力創生部次長兼環境モデル都市推進課長

竹本好文 環境保全課長

大窪奈都子 環境モデル都市推進課課長補佐

奥田和久 環境保全課課長補佐

木戸勇 環境保全課課長補佐

北里直之 環境保全課環境保全係長

大熊啓文 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係長

竹田有希 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係員

オブザーバー 株式会社地域計画建築研究所 森野  
バー

5 傍聴者 なし

9時30分 開会

6 審議内容

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

今朝の新聞で、東京で排出された土砂が三重県に搬出されていた問題が掲載されていた。東南アジアが日本の廃棄物受け入れを拒否する内容の記事もあった。土砂に関することは、生駒市では条例を制定し、対応はできている。今日は、環境基本計画の策定について中心に議論する。この議論は、環境を取り巻く一つひとつの問題に対応することの基本になると思っているので、忌憚のない意見を出してもらいたい。

### (3) 審議事項

以下、発言要旨。

- 中西達也会長** 会議の成立について事務局に報告を求める発言。
- 事務局** 会議の成立について報告。全委員14名のうち12名の出席により会議は成立。
- 中西達也会長** 事務局に傍聴者の報告を求める発言。
- 事務局** 傍聴者はなし。
- 中西達也会長** 案件1「第3次生駒市環境基本計画の策定について」審議を宣告。
- 事務局** 事務局に説明を求める発言。
- パブリックコメント案について審議いただきたい。前回の審議会で出た意見への対応を中心に、前回からの変更点及び、本日配布している資料で修正点がいくつか見つかったので、要点をまとめて説明する。
- p. 3 2段落目冒頭にある「第3次生駒市環境基本計画」は、「第2次生駒市環境基本計画」が正しい。
  - p. 5 コラムの記載内容について、SDGsの項目は例示していた箇所を削除し、別の文章に変更した。
  - p. 7 「②計画の期間」の説明文に、第6次生駒市総合計画との整合を図っている趣旨の文章を追加した。
  - p. 16 「部門別温室効果ガス排出量の推移」グラフを最新のものに差し替えたが、文章を変更できていないため、修正する。
  - p. 21 理想的な将来像を達成するための今後の課題を、分かりやすい表現に変更した。
  - p. 24 第2次生駒市環境基本計画の総括として、各指標の進捗状況へのコメントについてはp. 25に集約した。
  - p. 25 二酸化炭素排出量の目標に対する達成率は60.0%が正しいので修正する。
  - p. 26～「②プロジェクトと関連事業の経過実績」については、右ページにある総括の下に写真を挿入してパブリックコメント案として出す。
  - p. 39 【望ましい環境像】の下段にある「持続可能な未来を築くまち、いこま」の「、」をとる。
  - p. 42 指標設定の基本的な考え方を、2行目以降に追加した。現状値と目標値は今回初めて提示している。目標値を設定できるものは現在策定中の第6次生駒市総合計画と合わせて設定している。汚水処理人口普及率については、行政として目標の設定が難しいため、モニター指標として追加した。コミュニティ分野でも、市民満足度調査の結果をベースにする指標を追加した。一人あたり二酸化炭素排出量の実績値は、2.47（2016年）に修正する。
  - p. 46 「市民の取組」欄について。竹林の整備は計画しているが、す

ぐに製品の創出までは難しい。将来的には目指すが、現状では前回と同じ内容で据え置きしている。

- p. 50 プラスティック製容器包装の減量について追加した。
- p. 51 条例にもとづく生活環境の向上の項目に、歩きたばこのことを追加した。それに伴い、施策名を変更している。
- p. 61 具体的な施策とリーディングプロジェクトとの関係が分かりにくいという意見を踏まえ、表のレイアウトを変更した。目標にぶらさがっている施策とリーディングプロジェクトが関連していることを表現している。
- p. 62～SDGsの17の目標のうち、掲載するものをプロジェクトごとに精査した。前回まではワークショップから提案された項目をそのまま掲載していたが、関連がないものは省いた。
- p. 66 「次世代へつなげ！生駒の豊かな自然とライフスタイル」のプロジェクトに、入り口は自然環境に直接関連する取組でなくても出口が環境につながっている取組について、背景・目的の項目等に追加した。文章表記が「ですます調」になっていないので、修正する。
- p. 68 「スキル・空間のシェアリングでコミュニティ力アップ！」のプロジェクトに「体験のシェア」も追加した。
- p. 74 計画の進行管理における、チェックの主体が市民であることが分かるように追加した。

パブリックコメント実施時には用語集を追加して出す予定にしている。  
委員からの質問、意見を促す発言。

p. 42 代表指標の箇所で、説明文にあるように、指標を「客観的」「主観的」と分けていいのかどうか。主観的なものでも、ある意味、市民の意見という意味では客観的なので、強調する必要もないと思う。

「緑地の確保面積の割合」は、現状値と目標値でほとんど変わっていないが、何の値なのか、との質問。

**中西達也会長  
水谷知生委員**

**事務局**

主観的・客観的に関してはそのとおりにしたい。

緑地の確保面積の割合については、第6次総合計画と表記を合わせており、市域全体に対する緑地面積の割合である。緑地の内訳については、確認した上で説明したい、との回答。

**水谷知生委員**

現状値と目標値がほぼ同じであるので、「減らさない」という趣旨の目標なのかどうか気になる、との発言。

**事務局**

担当課に確認したところ、何もしなければ減っていく、という話であった、との回答。

**上武敏一委員**

市街化調整区域に家が建つから減るのではないかと、との発言。

**矢田千鶴子委員**

最近身近に感じているのは、それまで生産緑地であった場所の宅地化が進んでいることである。事務局が説明したように、このまま何もしなければ減っていくように感じる。現状維持でも相当な努力が必要なのではないか、との発言。

**水谷知生委員**

緑地にカウントされているものは何なのかが分からなければ議論がで

きない、との発言。

**事務局**

早急に確認したい、との発言。

**上武敏一委員**

我々としては、市街化調整区域は緑地から外してもらいたい。農村部の若い人が逃げていってしまうため、緩和してもらいたいという思いもある、との発言。

**中西達也会長**

緑地が具体的に何を指しているのかが現状分からないので、調査してもらいたい、との発言。

**水谷知生委員**

リーディングプロジェクトとSDG s との関係を整理されている。市民ワークショップからの提案の箇所は今回追記したのか、との質問。

**中西達也会長**

前回から少し内容が変わっている気もする。下に記載している部分を追加したのか、との質問。

**事務局**

説明が漏れていたが、追加している。

**水谷知生委員**

どういう趣旨で追加したのか。市民ワークショップからの提案なのか、位置づけがはっきりしない、との質問。

**オブザーバー**

前回の審議会の意見を受けて加筆したものである。事務局からの説明にもあったが、前回出した素案では、ワークショップで出たものをすべて入れていたが、今回集約した。ワークショップ当日の議論の中で重視していた点に集約している、との回答。

**水谷知生委員**

p.67に記載している提案はあえて書く必要があるのかどうか。内容をきちんと説明できないと思うので、省いてもいいのではないか、との発言。

**中西達也会長**

上に記載している「提案内容」と「提案」の位置づけの違いがよくわからない。下に記載しているのは、SDG s から引っ張ってきていることのようにイメージできるが、分かりにくい。このプロジェクトの箇所だけ省くのもバランスが悪いので、すべての箇所で統一する必要があると思う、との発言。

**水谷知生委員**

SDG s との関係については、さらりと書くくらいでいいと思う。すべてがどう関連しているのかまでは書けないと思う。ロゴだけ残して、関係性はみなさんに考えてもらえばいいと思う、との発言。

**事務局**

再度整理しなおしたい、との発言。

**遊津隆義委員**

p.42の代表指標について、例えば、再エネによる発電容量や1人あたりCO2排出量など、どういう背景があってこの値が出たのか知りたい。また、CO2排出量については、パリ協定の内容とどうリンクしているのか、ある程度わかるようにしなければならないのではないかと。CO2排出量については、市域全体の値もあるので、どう評価していくつもりなのかを聞きたい、との発言。

**事務局**

記載している数値の根拠について、再エネによる発電容量の合計は、資源エネルギー庁が公表している数字を使用している。1人あたりCO2排出量は、毎年内閣府に報告している市域全体の値を人口で割ったものである。目標値についても、将来推計人口で割って算出している。

環境基本計画の個別計画として、環境モデル都市アクションプランがあり、その中で、2030年度で35%、2050年度で70%削減、とい

う大きな目標を掲げている。その数字は、パリ協定や国の目標を照らし合わせても十分な水準になっている。CO<sub>2</sub>排出量も、その値から割り戻して1年ごとに算出している。現在の計画案では、それらの状況が読み取れないので、加筆等含めて再度検討したい、との説明。

**遊津隆義委員**

指標にした時に、1人あたりで算出するのがいいのかどうか。検討してもらいたい。また、目標値が5年後の値になっている。さきほど説明があったように、2030年、2050年の話があるので、それについては触れておいた方がいいように思う。再エネによる発電容量についても、パーセンテージで目標を設定してもらいたい。その方が、再エネを1つの柱にしている生駒らしい目標になると思う、との発言。

**中西達也会長**

第6次総合計画との整合性の話もあると思う。それとは別に環境基本計画独自の目標値を設定することは可能なかどうか、との質問。

**事務局**

市全体で進行管理をしていく流れの中で、総合計画と目標を合わせているが、CO<sub>2</sub>に関する指標については、長期的な目標は立てているが、全ての分野についてはできていないのが現状である、との回答。

**中西達也会長**

この議論については、代表指標のページではなく、別の箇所で言及できないだろうか。遊津委員の意見も踏まえて少し工夫してもらいたい、との発言。

**遊津隆義委員**

自身は、エネルギービジョンの策定にも携わっていたので、先ほど述べたような点が気になった。リーディングプロジェクトが今後の目玉になってくると思うが、定量的な評価基準がないので、どのように進めていくのか気になる。同じように、モニター指標も定性的なものになっている、との発言。

**事務局**

リーディングプロジェクトを進めるにしても、管理方法や何らかの到達点は必要だと思う。計画の中にKPIを記載するのは難しいと思っているが、進行管理方法で工夫していきたい、との回答。

**遊津隆義委員**

定量数値がなければどこを目指せばいいかわからない。このプロジェクトを実行する主体が一番迷うかもしれないので、意見として述べたい、との発言。

**中西達也会長**

モニター指標については検討した上での設定だと思うので、遊津委員のような意見がある、ということだけ押さえておいてもらいたい、との発言。

**矢田千鶴子委員**

遊津委員の意見に関連して、モニター指標にある参加人数は数値目標を設定できるのではないかと。市民満足度調査については現状値がないが、参加人数は現行計画でも管理している、との発言。

**事務局**

参加人数の現状値は把握できるので追加する、との回答。

**矢田千鶴子委員**

情報発信についても以前数値を把握して管理していた記憶がある、との発言。

**中西達也会長**

一度検討してもらいたい、との発言。

**上武敏一委員**

コミュニティ分野の指標に、「行動」を把握するものがないのではないかと。「環境意識と行動の輪が広がるまち」の指標であるので、意識と共に行動の変化を把握する必要があるのではないかと、との発言。

**矢田千鶴子委員**

講座に参加した結果、自分の行動がどう良くなったかを把握できない、

という趣旨だと思うが、それについては、ごみの再資源化率等で把握すればいいのではないかと、との発言。

**事務局**

それぞれの事業についてすべてを把握するのは難しいが、代表的なイベントや講座に参加した人の数を把握することで、行動が広がっているかどうかをモニターしたいと思っている、との回答。

**中西達也会長**

ごみや自然など他分野にまたがっているため、1つの指標で具体的な現状を把握するのは難しいと思う。

**遊津隆義委員**

市民の割合をパーセンテージで把握すればいいと思う、との発言。

**水谷知生委員**

市民満足度調査はどのように実施するのか。調査は毎年実施するわけではないとすると、どこかの段階で現状値を把握する必要がある、との発言。

**事務局**

総合計画の進行管理を担当している所属部署が実施する無作為抽出による調査で、2年に1度くらいの頻度で実施すると聞いている。新たな総合計画にあわせて設問を設定するので、現状値が把握できない、との回答。

**中西達也会長**

直近では、市民満足度調査はいつ実施する予定か、との質問。

**事務局**

第6次総合計画策定から2年後くらいを目処に実施すると思う、との回答。

**中西達也会長**

現状値の把握がそれくらいにしかできないのは遅いのではないかと。比較をする、という観点で言うと、もう少し早く把握できた方がいいと思う、との発言。

**矢田千鶴子委員**

水谷委員が言われたように、類似の数値を仮の現状値として記載してはどうか、との発言。

**事務局**

今まで実施してきた調査から、類似の数値を導くことができるか検討したい、との回答。

**中西達也会長**

現状推計値となってもいいので、検討してもらいたい、との発言。

**河瀬玲奈委員**

モニター指標と施策の関係性を確認したい。例えば、p.46には市民の取組を記載する項目に、「里山整備活動に参加します」とあるので、モニター指標として、活動に参加した人数を把握する、という理解でいいのかわかるか、との質問。

**事務局**

そのとおりである、との回答。

**矢田千鶴子委員**

p.47にある事業者の取組の表現について。「地元の農作物を進んで選びます」という表現はこれでいいのかわかるか。農業従事者も事業者であるので、解釈が難しくなるのではないかと、との発言。

**中西達也会長**

「事業者」の範囲が焦点になってくるので検討してもらいたい、との発言。

**矢田千鶴子委員**

p.21「今後の課題」の文章表現について。「参加頂けるように」という表現よりも「参加できるように計画を推進していきます」の方がいいと思う、との発言。

**水谷知生委員**

p.42の代表指標の設定自体も総合計画と整合を図っていることを前段の段落で記載してはどうか、との発言。

**下村晴意委員**

p.51に「生駒市歩きたばこ及び路上喫煙の防止に関する条例」について追加されたと思うが、具体的な事業として、条例の周知につながる実践的なものを追加してもらいたい、との発言。

- 中西達也会長** パトロールの実施によってポイ捨てが激減したのであれば今の記載内容で十分かもしれないが、減っていない現状があれば、他の事業も必要だと思うので、検討してもらいたい、との発言。
- 事務局** 今日出た意見への対応について、パブリックコメント案として出す前に再度審議会を開催することはスケジュール的に難しいので、会長・副会長に一任させてもらいたい方がいいか、との確認。
- 委員** 異議なし。
- 事務局** パブリックコメントは12月20日～1月21日まで実施。実施の際には計画概要についても添付する。2月の審議会では、実施後の対応について審議してもらいたい、との発言。
- 中西達也会長** 意見の募集期間、概要版の整理の仕方について議論したいが、気になる点はないか。特に意見がないようなら案件（1）を終了する。
- 事務局** 冒頭で質問があった「緑地の確保面積」について担当課に確認したので説明したい。緑地には、公園・緑道・都市緑地・公共施設の植栽地・市民の森・山林の中の風致地区も含む。農地は緑地には入っていないため、農地が減っても数値には反映されない。0.01%増の目標がどうかということだが、5,318ヘクタールが全体の面積であるので、それなりの面積になるというのが担当課の見解であった。増える要素としては、保安林以外の山林は緑地に含まれていないので、開発によって住宅地になり、住宅地の中に緑地ができれば増える、との説明。
- 中西達也会長** 案件（2）環境白書について事務局から説明をお願いしたい。
- 事務局** 環境白書について新たに取り組んだことや特筆すべき点を中心に主だった内容を説明。
- 中西達也会長** 委員からの質問・意見を求める発言。
- 河瀬玲奈委員** ①p.9に掲載されている目標年度について、平成42年はないが、このままいくのかどうか。
- 事務局** ②二酸化炭素排出量の値が計画と異なるのはなぜか、との質問。
- 事務局** 計算方法は白書と計画ともに同じなので、早急に確認して正確な数字にあわせたい、との回答。
- 横井明弘委員** 竜田川の水質について、29年度が悪くなっているのは、測定した全ての回で悪くなっているのか、特定の回だけが悪いのか、との質問。
- 事務局** 測定した月によって差が出ており、特に悪い月の結果の影響を受けている。2月がかなり悪かった、との回答。
- 藤澤清二委員** p.45 大気汚染と悪臭の件について。生駒市の火葬場は6月など湿度の高いときは臭いがすると聞いている。火葬場の悪臭についてどのように処理しているのか聞きたい、との質問。
- 中西達也会長** 実際、そういった苦情・申し入れは役所に届いているのか、との質問。
- 事務局** 昨年度までのことは把握していないが、今年度に関しては、申し入れは受けていない、との回答。
- 藤澤清二委員** 煙突のある設備になっているが、悪臭が出ないように設備を改良してもらいたい。環境モデル都市としてふさわしくないと思うので、根本的に考えてほしい、との発言。

**中西達也会長**

地元からそういった意見があるということを念頭に置いて、今後検討いただきたい、との発言。

**遊津隆義委員**

p. 23 レジ袋削減の問題だが、環境省でも「全廃」となっている。プラスチック問題はどんどん加速していくと思うので、先端を走る市として意識してもらいたい。

p. 41, 42 環境マネジメントシステムは第3次環境基本計画でも評価のベースになる。LAS-E 規格を使うのかどうか、との質問。

**事務局**

導入当初は LAS-E の統一規格を使っていたが、そのノウハウを継承して独自運用に切り替えている。継続的に取り組んできたことで、エコオフィスの取組は各部署に意識として定着している。エコオフィスだけでなく、環境施策を各部署の業務にどうからませっていくのが今後は大事になる。それも考えながら第3次計画でも PDCA サイクルを回していきたいと考えている、との回答。

**中西達也会長**

p. 23 レジ袋の削減に関して、図表 30 にある協定締結店舗は市内スーパーすべてかどうか、との質問。

**矢田千鶴子委員**

ディアーズコープいこまが入っていないが、もっと前から有料化しているので、記載対象になっていない、との発言。

**中西達也会長**

案件(2)を終了。

**事務局**

今後の予定について、計画案を12月議会で報告してパブリックコメントを実施。次回審議会でその結果を議論してもらおう。次回の審議会は2月を予定しているのでよろしくお願ひしたい。

11時24分 閉会